

中国語の語法アスペクトの種類と構造

孫 偉

要 旨

中国語のアスペクト研究は、理論的根拠や研究方法などが異なっているため、その分類と表現の研究結果も様々である。本稿は、語法アスペクトの様相を明らかにするため、構造研究法(図形表示法)の導入により、中国語の語法アスペクトの種類、構造、表現方法を考察する。研究では、語法アスペクトを基本アスペクトと派生アスペクトに分け、さらに基本アスペクトを動作開始(前)・動作進行・動作完成・結果状態持続・結果状態完成・結果記憶持続・開始(後)に分類し、派生アスペクトを反復・単純状態・経験・パーフェクトに分類している。そのうえで、各種アスペクトの構造を解析し、それぞれの表現方法を説明している。

キーワード: 語法アスペクト 種類 構造 語法手段

1 先行研究の分類と構造分析

中国語のアスペクト研究は黎錦熙(1924)から始まったものであるが、時間別、分類法別および研究者別に見れば、以下のように概観できる。

1.1 早期研究

王力(1943)は、アスペクトを「情貌」と呼び、それを「進行貌・完成貌・近過去貌・開始貌・継続貌・短時貌」の6種類に分け、語法手段を中心に表現法を分析している。

高名凱(1948)は、アスペクトの種類を「進行相あるいは綿延相、完成相あるいは完全相、結果相、起動相、疊動相、加強相」に分け、その表現方法は語法手段と語彙手段の両方であると考えている。

呂叔湘(1956)は「アスペクトは動作の過程のなかの段階である」(p.228)と定義したうえで、アスペクトを「方事、既事、起事、継事、先事、後事、一事、多事、短時、屢発、反復」と分類し、この各種アスペクトの標記を動態助詞、数量詞、動詞などで示している。

早期のアスペクト研究は、語彙手段に注目するものもあるが、語法手段に重心を傾けたものが多い。また、各研究の分類基準と方法も異なり、アスペクトの標記に対する認識も異なっている。

1.2 発展期研究

20世紀80年代以降、中国語のアスペクト研究が盛んに行われてきている。

王松茂(1981)は、「アスペクト範疇の語法的意味は動作変化の一定の時間過程のなかでの方式と状態を指す。ここでの方式というのは動作の開始、進行、完了、持続、結果、反復、終止などを指している」(p.65)と述べ、語法的意味と語法形式によって、中国語のアスペクトを「開始、継続、進行、完了、結果、経験(経歴)、短時、間歇、反復、終止」の10種類に分けている。王松茂(1981)の研究によって、中国語のテンスとアスペクトの研究は次第に細かく考察されるようになった。

陳平(1988)は「話者が出来事の情状を表す角度に着眼し、出来事を丸ごとの情状として表現することもできれば、ある持続状態あるいは選ばれた過程として表現することもできる」(p. 420)と述べ、前者を完結相(perfective)、後者を非完結相(imperfective)と呼んでいる。そのうえ、陳平は図1を用いて中国語のアスペクトを分析している。図1では、アルファベット文字がアスペクトの各段階を示し、BとDはそれぞれ出来事の起始点と終結点を表すとされている。

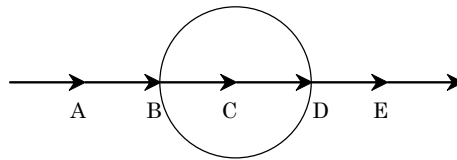


図1—陳平(1988 : 420)のアスペクト構造図

陳平(1988)は、まず「Bを境にして、B以前の状態を未然態と呼び、B以後の状態を已然態と呼ぶ」と述べ、そして「Dを境にして、D以前の各段階を“了”“起来”“下去”“着”などで表し、D以後の各段階を“过”“来着”“了”などで表す」(p. 420)と述べている。陳平は、出来事を開始前の段階(A)から完了後(E)までの位置で示している。各段階の表現方法および各段階間関係を完全明白に述べてはいないものの、図形を用いた分析は中国語アスペクトの研究方法をより豊富にしたと言える。

龚千炎(1995)は、中国語のアスペクトを図2で示される8種類に分け、それらの構造関係を図示したうえで、標記となる助詞、副詞、語気詞などを分析している。

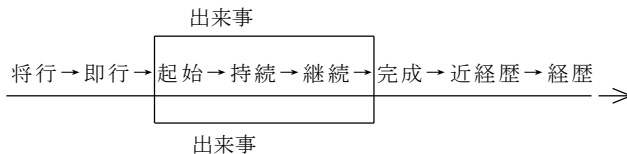


図2—龚千炎(1995 : 110)のアスペクト構造図

龚千炎(1995)の研究は陳平(1988)の影響を受けていると考えられるが、両者の共通問題は基本アスペクトと派生アスペクトを一緒に考えていることである。

戴耀晶(1997)はアスペクトを「完結相(perfective)」と「非完結相(imperfective)」に分け、そして「完結相」を「現実」「経歴」「短時」に、「非完結相」を「持続」「起始」「継続」に分け、それらの構造と表現形式を考察している。

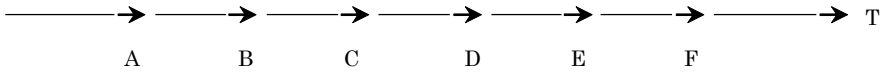


図3—戴耀晶(1997: 28)のアスペクト構造図

構造図については、戴耀晶(1997)は以下のように説明している。

図形は、ある持続時間がBDである出来事(瞬間出来事の場合、BDは点になる)を表しており、現実相“了”はDまたはEの位置で出来事全体を観察するものである。経歴相“过”はEの位置で出来事全体を観察するものである。短時相“動詞の繰返し”はA, B, DまたはEの位置で出来事全体を観察するものであり、BDが短い時間だけをとると考えられる(短時相はよく未来の出来事を表すため、よくAで未来の出来事全体を観察する)。持続相“着”が観察するのはCの前後に形成される持続(Cは不定点)であり、起始相“起来”が観察するのはBおよびその発展である。継続相“下去”が観察するのはC(出来事の半ばの定位点)およびその発展である。BとCの実現は相対的に完結相としてとらえられるため、“起来”“下去”は現実相を表す“了”と共に起できる。(pp. 106-107)

陳平(1988)、龚千炎(1995)、(戴耀晶1997)は、ともに図形を用いてアスペクトの構造を解析している。この三つの図形を比較・分析すれば、以下のようなことが言える。

①三者とも出来事の存在する時間的位置からアスペクトの構造を解釈している。これは、中国語においてもテンスとアスペクトの間に密接な時間関係があり、各種のアスペクトの間に時間的順序関係がある、と立証している。

②バーナード・コムリー(1976)は、「アスペクトは場面の内的な時間構成をとらえる、さまざまなし方である」(pp. 11-12)とアスペクトの定義をし、「アスペクトを論じるさい、ぜひ理解しておかなければならないことがある。それは、完結性 perfectivity と非完結性 imperfectivity とのちがいは、かならずしも場面のあいだの、客観的なちがいでないし、また話し手によって客観的なものとしてさしだされているもののあいだのちがいでない、とのことである。」(p. 13)と述べている。これにしたがって考えれば、上述の「完結相」と「非完結相」の分類が妥当であり、図3およびその説明は一定の合理性がある。

③細分類においては、分類の方法と結果には不足と不統一があり、基本アスペクトと派生アスペクトを分けて考えていない現象が際立つ。

④構造的に中国語のアスペクト体系を解析しようとする研究が現れているものの、図形描写法や体系への異なる理解などの原因で、構造研究はまだ進んでいない。

範晔・張豫峰(2008)は、アスペクトは動作の進行過程にある異なる段階の特徴を反映し、主体が客観動作の時間の特徴を観察する形式を表す(p. 310)と述べ、中国語のアスペクトを「完結相」と「非完結相」に分けている。そのうえで、分割できない「完結相」を「実現」「経歴」「近経歴」「短時」に分け、分解できる「非完結相」を「持続体」「起始体」「継続体」に分けている。

表1-中国語アスペクトの主な分類法

文献	アスペクト名<標記>
王力(1943) 6種類	①進行<着> ②完成<了> ③近過去<(文末の)来着> ④開始<(文末の)起来、「起+目的語+来」> ⑤継続<(文末の)下去> ⑥短時<動詞の繰返し>
高名凱(1948) 6種類	①進行または綿延<着、在、正在、正在…着> ②完成または完全<了、过> ③結果<着、住、得、到、中> ④起動<剛、才、恰、方、剛才、恰才、方才> ⑤疊動<動詞の繰返し> ⑥加強<意味類以の動詞の連用>
呂叔湘(1956) 11種類	①方事<着> ②既事<了> ③起事<起来> ④継事<下去> ⑤先事<去、来> ⑥後事<来、来着> ⑦一事<数量詞「一」> ⑧多事<「二」以上の数量詞> ⑨短時<動詞の繰返し、動詞+一+動詞> ⑩屢発<動詞の繰返し、動詞+一+動詞> ⑪反復<又、…来…去>
王松茂(1981) 10種類	①開始<来、起来> ②継続<下去> ③進行<着> ④完成<了> ⑤結果<到、到了> ⑥経験<过> ⑦短時<動詞の繰返し> ⑧間歇<動詞1+了(又)+動詞1> ⑨反復<動詞1+来+動詞1+去> ⑩終止<動詞+下来、動詞+的>
龔千炎(1995) 8種類	①完成・実現<了、已经> ②経歴<过・曾经> ③近経歴<来着> ④進行・持続<着、正/正在/在> ⑤起始<起来> ⑥継続<下去> ⑦将行<将要> ⑧即行<快要(快+要)、就要(就+要)、即将(即+将)>
戴耀晶(1997) 6種類	①現実<了> ②経歴<过> ③短時<動詞の繰返し> ④持続<着> ⑤起始<起来> ⑥継続<下去>
範晔・張豫峰(2008) 7種類	①実現<了> ②経歴<过、过了> ③近経歴<来着> ④短時<動詞の繰返し> ⑤持続<着、正/正在/在> ⑥起始<起来> ⑦継続<下去、起来>

これまでの主な分類および標記の認定は上の表1のようにまとめることができる。

孫英杰(2007:225)は、テンスとアスペクトについて、以下のように述べている。

あらゆる理想的な文はテンス・アスペクト情報の面においては四つの基本特徴を持つ。①動詞自体のアスペクトの特徴，②文を構成する叙述のアスペクト的特徴，③話者が観察あるいは発話する叙述の角度，④叙述の時間的位置。この四つの基本特徴が出来事のアスペクトの特徴を決定し、かつ四特徴の間の配列順序も固定している。それによって、完全な「テンスーアスペクト階層」(tense – aspect hierarchy)が構成される。すなわち、

[テンス [語法アスペクト * [叙述アスペクト [動詞]]]]]

4 3 2 1

孫英杰(2007)は、アスペクト体系は「動詞語彙アスペクト」「叙述アスペクト(predicational aspect)」「語法アスペクト」によって構成されていると基本的な仮説を立て、語法アスペクトを完結相と非完結相(進行相と持続相を含む)に分けている。

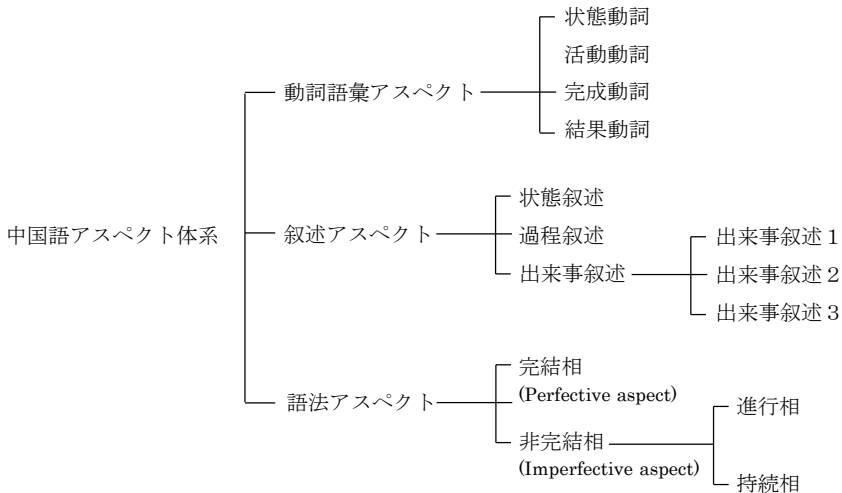


図4—中国語アスペクト構成図(孫英杰2007 : 47)

孫英杰(2007)のアスペクト体系論は、完結相についてはまだ掘り下げていないようであるが、新しい観点を持ち、興味深い研究である。

尚新(2007)は、語法アスペクトの内部対立と中立化に注目し、アスペクトを図5

のように分類し、それぞれの表現方法を考えている。

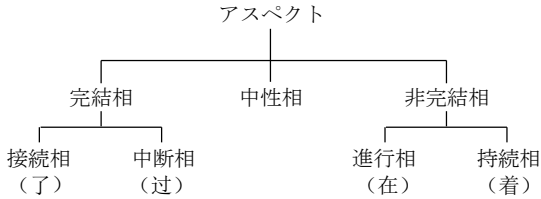


図5-中国語の語法アスペクト分類体系(尚新2007:137)

尚新(2007)では、中性相は一種の零標記の現象であり、中性相と完結相と非完結相の間には代替可能の関係があるととらえられている。尚新(2007)は語法アスペクトについてある程度の整理をしているが、零標記の現象およびアスペクトの分類については、まださらに検討すべき問題が残されている。

陳前瑞(2008)は中国語のアスペクトを類型学的視野で考察し、「核心視点相」「周辺視点相」「段階相」「情状相」という4大類型に分けたうえで、表2のように細分類と表現方法をまとめている。

表2-陳前瑞(2008)アスペクト分類表

核心 視点相	未完結相 (内部視点相)			完結相 (外部視点相)		
	語尾“着”			語尾“了”		
周辺 視点相	進行相 (内部視点相)			完成相 (外部視点相)		
	“正, 正在, 在, 呢”など			語尾“了”, 語尾“过”, “来着”など		
段階相	起始相	延続相	完結相	結果相	短時相	反復相
	“起来”	“下来”, “下去”	補語としての “完,好,过”	補語としての “着,到,見”	動詞の繰返し “説説”	二重繰返し “説説笑笑”
情状相	状態情状		動作情状		完了情状	達成情状
	“知道, 是”		“跑, 完, 唱歌”		“創造, 建造”	“死, 赢”

(陳前瑞2008:271, 表12-2)

陳前瑞(2008)の分類法は確かに各種類の特徴を捉えている。しかし、表2と図4を比較してみれば、陳前瑞(2008)は語彙アスペクトと語法アスペクトを一緒に考えているように思える。また、これまでの研究と同様に、下位分類された各種アスペクトはどのような時間順序でその時間的位置を考えればいいのか。アスペクト表現形式と構造上に占めている位置からすれば、各種アスペクトの間にどのような関連性があるのか。このような問題が依然として解決されていない。

何偉・付麗(2015)は「准語法アスペクト」の概念を提出している。研究は、中国語のアスペクトには、動態助詞によって表される「語法アスペクト」、時間副詞と一部の虚(詞)化した動詞によって表される「准語法アスペクト」、述語の意味によって表される「語彙アスペクト」という三種類のアスペクトがある、と指摘している。この分類は表現方法から出発した考察結果であり、以前の研究より正確にアスペクトの表現体系をとらえている。しかし、研究は選択体系機能言語学の角度から意味と形態の側面で考察したものであり、意味的に中国語のアスペクトを「将行、開始、進行、完成、実現」という5種類に分類している。この5分類法は陳平(1988)などの影響を受けているものであり、表現方法による(語法・准語法・語彙)の3分類と比較して考えれば、非常に不十分としか言いようがない。

中国語のアスペクトについては、形態論、意味論、類型学、選択体系機能理論などの理論に従った各種研究もあるが、中国語の特徴を強調して独自の体系を作り上げようとする研究も行われている。そのため、多種多様なアスペクト分類が現れ、それぞれのアスペクト表現についても諸説が並立している。1980年以前は、テンスとアスペクトの概念と分析における混同現象(表1:王力(1943)の③、呂叔湘(1956)の⑤⑥など)が見られているが、1980年以後は、そのような研究が次第に見られなくなり、分類と表現の問題が際立ってきている。中国語では、アスペクトは狭義のアスペクト(語法手段)と広義のアスペクト(語彙手段)に分けて考えられている。しかし、表現形式においては、動態助詞、時間副詞、動詞の繰返し、補助動詞などを以ってアスペクトを解釈しており、語法範疇と語彙範疇を区別せずに用いて解釈する現象(表1、表2、図4～5参照)が存在している。

完全な出来事は、人間が想像する段階から忘却するまで、動作、状態、記憶のすべての過程を持つものである。このように考えれば、これまでの研究は、全過程のいくつかの対立したアスペクト或いは部分的なアスペクトを取り出して分析し、不完全な分類を行っているとしか言えない。各種アスペクトは孤立して存在しているものではなく、必ず全出来事のある時点(または時間帯)の様相を表すものである。表現形式の相違は各言語の表層にある文法(語法)および語彙の使用方法によるが、アスペクトの深層構造は必ず同様である。そのため、本研究は、完全な出来事がもつ内部構造に着目し、そこから中国語の語法アスペクトの種類および表現方法を考える。

2 中国語のテンス・アスペクトの時間的構造関係

「ことば」の背後には、「ことば」のもとなる構造がある。これにしたがって、今泉喜一(2000)は構造研究(図形表示)法を創出し、深層構造から日本語の文法を解釈している。その理論が各言語に通用するものと考えられるため、中国語のテンス・アスペクトの時間的構造関係を下図のように表すことができる。

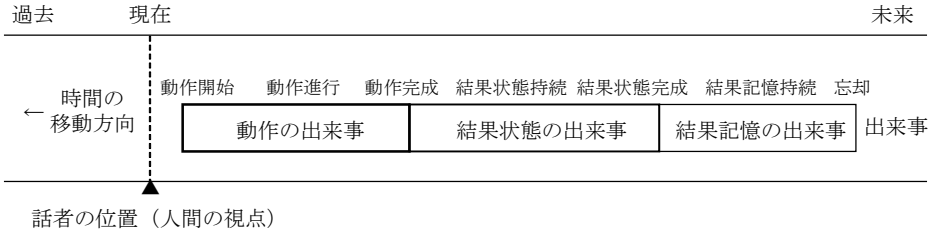


図6-テンスとアスペクトの基本的位置関係

時間の流れを川の流れに、出来事を舟にたとえることができる。出来事という舟が上流(未来)から下流(過去)に移動すると考えられている。話者が「現在」位置に立ち、出来事の全体あるいは一部が未来・現在・過去のいずれの時間に生起するかを見ることができる。この外部から出来事の発生時間(未来・現在・過去)を観察するときには得られる概念がテンスである。時間の流れの中で動いている一方、出来事自体も様々な様相を呈している。人間が出来事を表現するには、その出来事の開始から人間が完全に忘却するまでという過程が存在していると想定できる。この過程のなかで、出来事がどの段階に進んでいるのかを見ることができる。即ち、出来事の内部(動作開始・動作進行…結果記憶持続)を観察するとき、アスペクトの概念が得られる。

話者がことばで出来事を表現するとき、この出来事を時間の流れの中に置いて描写するものである。このとき、出来事を丸ごと成立したものとして見ることもできるが、出来事のある局面を特定し、それに焦点を合わせて表現することが多い。この選択された局面は「アスペクト言及点」(今泉喜一2000:144)と呼ばれる。話者がいつも「現在」の位置に立って出来事の変化をことばで表現するため、話者の位置と選択された局面の間に一定の時間関係が生じることになる。この関係は図7のように数字で表すことができる。

図7では、現在点の位置(話者の位置)を2桁の数字で、話者が言及する位置すなわち言及点を1桁の数字で表示している。この両者の合計数字はテンスとアスペクトの位置を示している。現在点と言及点を結ぶ線は「言及線」と呼び、[01]のような数字で表すことができる。つまり、[01]は話者の位置が00であり、言及点が1である、ということの意味している。

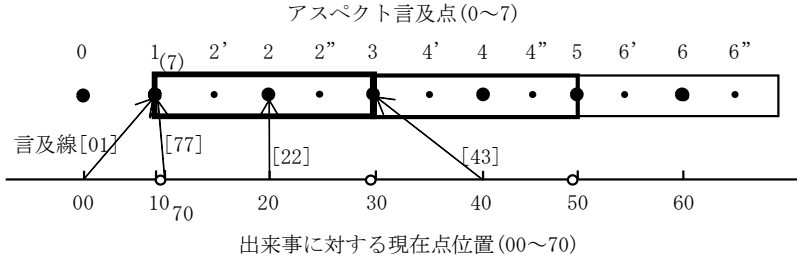


図7-アスペクトの言及点

3 中国語の基本的語法アスペクト

言及点は枠内の任意の点であってもいいが、一定の幅をもつものでもいい。図6と7を合わせて分析すれば、完全な変化過程をもつ出来事は、そのアスペクトが未来、現在、過去の異なるテンスのもとに、それぞれ7種の基本アスペクトを有する、ということになる。この7種のアスペクトはすべて語法手段で表すことができ、以下のような位置を占めている。

- 言及点1……動作開始(前)
- 言及点2……動作進行(中)
- 言及点3……動作(進行)完成(後)
- 言及点4……結果状態持続(中)
- 言及点5……結果状態完成(後)
- 言及点6……結果記憶持続(中)
- 言及点7……動作開始(後)

3.1 未来の構造と表現

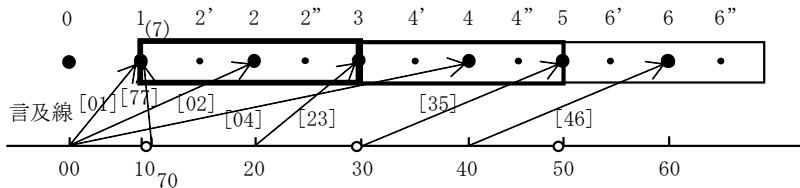


図8-未来のアスペクト

未来開始(前) ([01])

- (1) 妻子順便买些油盐酱醋，针头线脑。／妻はついでに調味料や裁縫用の針や糸などを買う。(王巨『黑麻雀』)
- (2) 这七个点我们将要布下埋伏。／我々はこの七カ所に待ち伏せの陣を敷く。(梁晓声『埋伏』)

未来開始の文にはあたかも動態助詞がないように見える。李臨定(1990)と李鉄根(1999)は、中国語の時制範疇は異なる分析形式および動詞の零形式によって表されると認識している。尚新(2007)はこれを中性相と呼び、中国語の形態的強制性の不足および「音義相互作用規定」の共同作用によって形成された一種の零標記の現象である、と述べている。いわゆる動詞の零形式は、動詞の後ろに動態助詞“了，过，着”などを付けることに対しての概念であり、動詞の後ろに動態助詞などを一切付けないことである。形態論の角度から考えれば，“了，过，着”が動詞に付く以上、動詞の後ろに動態助詞が入る位置が存在するはずである。したがって、動詞の後ろに入る動態助詞“了，过，着”などに対し、動詞の後ろに何も付けない形態を動態助詞“0(ゼロ，零)”あるいは“零”動態助詞と呼ぶことができる(孫偉2006)。この“零”動態助詞の認定によって、中国語の未来のテンスと開始(前)のアスペクトが語法手段で表せるようになり、中国語の動態助詞を以ってテンス・アスペクトを表す語法体系が確立できるということになる。

(1)では、動詞の“买+零”の形式によって、出来事が未来に生起する(開始前)と表されている。(2)では、未来を表す時間副詞“将要”が用いられているが、“将要”を削除しても(1)と同様な時間概念が得られるため、決定的な役割を果たすものが“零”動態助詞であると認識できる。即ち、中国語の未来開始(前)は動態助詞“零”によって表されるものである。ただし、ここの「開始」は開始以前の局面[01]であり、[77]が表す開始(後)でもなければ、“動詞+開始”が表す語彙アスペクトでもない。

未来進行([02][12][22])

(3) 明天等你酒醒以后，还是你闯红灯的地点，还是那个时间，我等着你来接受处罚。／明日，あなたの酔いが醒めたら，相変わらず信号無視のところで，相変わらずその時間に，あなたが処罰を受けに来るのを待っている。(陈源斌『杀人有罪』)

(4)a 明天上午10点，我正在录音呢。你别来。／明日の午前10時，私は録音をしているので，来ないでください。

(4)b 明天上午10点，我录音呢。你别来。／同上。

単独に用いられる動態助詞“着”や時間副詞“正，正在，在”などが現在時間しか表さないため、出来事の未来進行を表すには、未来時間を限定する時間詞などが必要になる。助詞“呢”が陳述文の文末に用いられる場合、動作あるいは状況の持続の状態を表し、よく“正，正在，在”あるいは“着”などと組み合わせられる(呂叔湘1999:413)。(4)aでは“正在”と“呢”が併用されているが、(4)bでは“呢”だけが用いられている。二つの文がともに成立することから、“呢”も未来進行を表すことになる。

未来(進行)完成([03][13][23])

(5) *明天, 写了论文。/ *明日, 論文を書いた。

(6) 你忘了他吧! (了₁)¹ / 彼のことを忘れよう。

(7) 明年我就毕业了。(了_{1,2}) / 来年, 私は卒業してしまう。

動態助詞“了”の機能については、房玉清(1992: 454-455)は「完成性動詞の後ろに用いられた“了₁”が完成を表し、持続性動詞の後ろに用いられた“了₁”が実現を表すが、テンスの角度から分析すれば、動態助詞“了₁”は単独使用の場合には、過去の時間領域を示すものである」(pp. 454-455)と述べている。それに対し、李鉄根(1999)は「時間を表す角度から見れば、“了”は過去已然を表すこともできるし、過去と現在を区別しない已然を表すこともできる。過去と現在を区別しない(区別する必要もない)からこそ、話者が過去時間詞を入れて出来事の過去已然性を示すこともできれば、過去から現在までの時間詞を入れて出来事の過去から現在までの已然性を示すこともできる」(pp. 20-21)と述べている。

(5)では、テンスの角度から見れば、過去を表す“了₁”と、未来を表す“明天”が異なった時間領域を示している。この矛盾があるため、未来完成のアスペクトを表すには、(5)のような文は不成立になる。反対に、(6)のような命令や願望を表す文では“了₁”の使用が可能になる。これは命令文と願望文自体が未然を表し(張斌2006:338)、動詞“忘”が完成性の動詞であるからである。(7)では未来時間を示す時間名詞“明年”と時間副詞“就”が用いられ、“了”が語尾に用いられている。この時の“了”には、実現の意味を示す“了₁”と新しい状況が発生または出現の意味を示す“了₂”が含まれている(侯学超1998:382)ため、(7)文の形で未来完成を示すことができる。これによって、文中に未来を示す時間詞が存在する場合、話者が“了”を使って出来事の未来完成を表すことができると考えられる。

完結相はよく動態助詞“了”と“过”によって表される。両者の違いは、“了”が表すのは現実として完結した出来事であり、“过”が表すのは経験して完結した出来事である、ということである(戴耀晶1997:7)。したがって、“了”は完成相の標記である。中国語の未来完成相の表現形式については、未来テンスの制限を受けるため、“了”は完全にあらゆる出来事の完成相を表すことができず、時間名詞や時間副詞との併用が必要になる。しかし、これは中国語に未来完成相が存在しないという意味ではない。未来完成相は、動態助詞“了”での語法上の表現形式があるほか、動詞を付加する形での語彙上の補助的表現形式もある。²

1 “了₁”は動詞の後ろに用いられる動態助詞である。“了₂”は語気を表す語気詞である。動詞の後ろに用いられ、かつ文末に位置する“了”は“了_{1,2}”になる。詳細は侯学超(1998)などを参照されたい。

2 語彙手段で表す未来完成については、範晔・張豫峰(2003)、孫英杰(2007)、陳前瑞(2008)などを参照されたい。

未来結果状態持続 ([04][14][24][34][44”])

(8) A:阿姨, 我还不认识你, 怎么才能找到你呢? /おばさん, 面識がありませんから, どうやっておばさんを見つけますか。

B: 我们见面时, 我上身穿着一件红西服, 下身穿着一条黑裙子。带着一条金链, 手里会拿着一本英文杂志, 你一看就知道我是谁了。/会うときには, 私は赤い洋服を着ており, 黒いスカートを穿いている。金のネックレスをしており, 手には英文雑誌を持っている。見ればすぐ私だとわかるよ。(楊寄洲ほか1999: 第48課) ([04])

会話内容から, Bの“我们见面時”は未来であると判断できるため, B文のすべての“着”が未来動作完了後の結果状態持続を表すことになる。また, (9)のように, 未来時間が示され, 状態動詞が用いられる場合, 助詞“呢”も未来結果状態持続を表す。

(9)a 明天早晨8点, 我在睡觉呢。你别打电话。/明日の朝8時, 私は寝ているので, 電話をしないでください。

(9)b 明天早晨8点, 我睡觉呢。你别打电话。/同上。

未来結果状態完成 ([05][15][25][35][45])

(10) 下个月, 花就开了。/来月, 花が咲く。([03][13][23])

(11) 下个月, 花就开完了。/来月, 花は咲き終わってしまう。([05][15][25][35][45])

* (12) 下个月, 花就开过。/*来月, 花は咲いたことがある。

時間が未来である場合, (10)の“了”が未来の動作完成を表す。つまり, (11)のように, 完成の意味を表す中国語の補助動詞「完」と動態助詞「了」の結び付いた「完了」で表すことになり, 中国語では未来結果状態完成を表すには動詞の意味を借りる必要がある, ということになる。この「完+了」の形態は, 孫英杰(2007), 何偉・付麗(2015)などが述べた語彙アスペクト表現の一種であり, 研究を続けていく必要がある。(12)の“过”文は成立しない。それは, 動態助詞としての“过”は過去にある出来事が発生した, もしくはある状態が存在したということを表す(侯学超1998:248-249, 劉月華ほか2001:399)からである。

未来結果記憶持続 ([06][16][26][36][46][56][66”])

(13) 到明年3月为止, 我共出5次差。/来年の3月までに, 私は5回出張している(ことになる)。

話者が「来年3月まで」の出張回数を考えている。話者がまだ出張していない, もしくは3回出張した, あるいは出張中である, という可能性がある。発話位置は00から60までの任意点であってもいいが, 言及される位置は必ず6あるいは6”の言及点である。すなわち, 状態としての出来事が完成した後の部分であり, それに対する推測性の記憶である。時間が未来に限定される場合, 中国語の未来結果記憶持続は動態助詞“零”によって表される。

3.2 現在の構造と表現

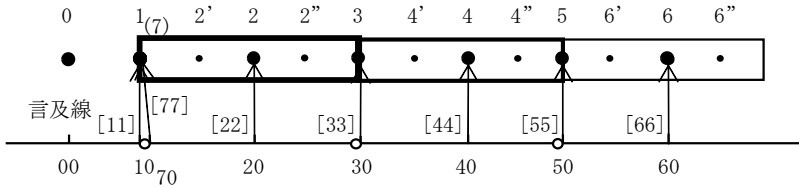


図9—現在のアスペクト

現在開始(前) ([11])

(14) 我现在就走。(私はいますぐ行く。)

現在開始は、現在を表す時間詞および“零”動態助詞によって表される。現在開始と言っても、実際に「現在」の視点から見れば、出来事はまだ始まっていない。いわゆる「未来」と「現在」の区別は、時間詞によって表される時間が話者に近いか遠いかにある。“現在(現在, いま), 马上(すぐに), 立刻(即刻に)”などの時間詞によって出来事の発生時間と発話時間が限りなく近いとき、テンスは現在になる。反対では、テンスが未来になる。未来開始を[01], 現在開始を[11]で示すように、話者のいる位置の違いによって、そのアスペクトを観察する立場も変化してくる。

現在進行 ([22])

(15) 腊月使劲地点着头。／腊月は力強くうなずいている。(美桦『腊月和尾巴』)

(16) 他正在作他的毕业论文。／彼は卒業論文を書いている。(丹羽『出轨』)

(17) 他心上正在盘算着怎样措辞。／彼はどのような言葉遣いをしようと心の中で思案している。(钱钟书『钱钟书文集』)

(18) 他吃饭呢? ／彼はご飯を食べている? (『CCL』³)

現在進行は動態助詞“着”, 時間副詞“正在”, “正在”と“着”の組み合わせ, 助詞“呢”などによって表される。

現在(進行)完成 ([33])

(19) 现在明白了。／いま, 分かりました。[現在完成]

現在完成は、現在を表す時間詞と完成を表す“了”の共同作業によって表される。なお、現在を表すことばを用いなければ、出来事のアスペクトは過去完成になる。

(20) 我(刚刚)做饭来着。／私は(今まで)料理を作っていた。[現在進行完成]

“来着”の主な機能は完成のアスペクトを表すことである(張斌2002:334, 陳前瑞2005:309)。劉月華ほか(2001:407)は“来着”の時間性について、「陳述文の文末に用いられる“来着”は少し前にある出来事が発生したことを表す。いわゆる『少し前』とは、話者の主観感覚であり、指す時間が必ず近いとは限らない」と述べている。

3 CCL: 北京大学中国語学研究中心現代漢語語料庫 <http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp>

そのため、終わったばかりの出来事を表すには“刚刚”“刚才”のような時間詞を用いる必要があり、少し遠い過去の出来事を表すには“那时候”“上个月”のような時間詞を用いる必要がある。

現在結果状態持続 ([44])

- (21) 现在，他们坐在一家酒吧里面，警察也穿着便衣。／いま，彼らはあるバーの中に座っており，警察も普段着を着ている。(艾伟『标本』)
- (22) 宜昌客运总站门口挂着很醒目的航运时刻表。／宜昌バスターミナルの出入口にとっても目立った時刻表がかかっている。(张跃『“野”姓导游』)
- (23)a 马王爷的身上，现在充满了一种年轻人才有的激情。／馬親王の体に，いま，若者だけにあるような激情が満ちている。(高建群『大顺店』)
- (23)b 马王爷的身上，现在充满着一种年轻人才有的激情。／同上。

現在結果状態持続は“着”，“了”，“正在”，“正在”と“呢”の組み合わせ，“呢”などによって表される。“了”は実現を表し，動作・行為・状態などを事実させる役割を果たす(侯学超1998:381)。この状態が現在時間においても持続している場合，動態助詞“了”と“着”は互換でき，ともに言及線[44]の示す局面を表すことができる。また，(24)～(26)のように，“呢”と“正在”と“在”も動作と状態の継続をともに表せる(呂叔湘1999:413,672)ため，状態動詞が用いられた文では状態の持続を表すことになる。

- (24) 他睡觉呢。／彼は寝ている。
- (25) 队伍正在一天天壮大起来。／隊伍が日一日と強大になってきている。
- (26) 我一直在等待机会的到来。／私はずっとチャンスの到来を待っている。

現在結果状態完成 ([55])

- (27) 你刚才昏倒了。／君は，さっき気を失って倒れていた。
- (28) 你刚才昏倒过。／同上。
- (29) 我一直在学校来着。／私はずっと学校に行っていた。

時間副詞“刚才”は時間を近過去に限定し，現在結果状態完成は“了”或いは“过”によって表される。(29)では，動詞“在”は存在動詞であるが，ここでは一種の存在状態を表している。局面[55]は近過去の意味を持つ“来着”によって表されている。

現在結果記憶持続 ([66])

- (30) A: 你今天都干什么来着? / 今日は何をしていたか?
 B: (一边思考一边说) 就去了一趟超市，然后一直在家看书来着。／(考えながら言う) スーパーに行って，それからずっと家で本を読んでいる。

Aの質問に対し，Bは一日中の出来事を回想して答えたのである。この種の陳述は現在の脳裏に記憶されたものであり，話者による現在以前の動作あるいは状態に対する回想的な陳述である。日本語では動詞の「ている」形で現在を表すことが

できるが、中国語では過去を表す時間詞または文脈と動態助詞の組み合わせ、もしくは過去を表す“了”，“来着”によって表される。なお，(31)のように，回想の場面であれば，過去の意味を有する“过”も現在結果記憶を表せる。

- (31) 警察：老实说！刚才你去没去过那里的商场？／正直に話さないか。あそここのデパートに行っていないか？
 犯人：让我想一想。嗯，去过。／ちょっと思い出させてください。うん，行っている。

3.3 過去の構造と表現

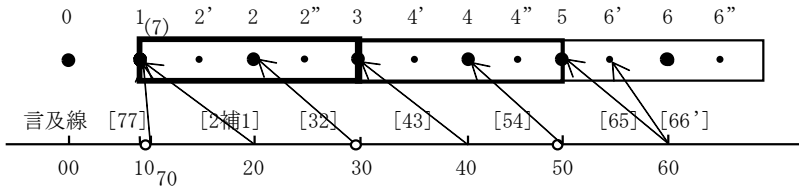


図10—過去のアスペクト

過去開始(前) ([2補1]など)

* (32) 上个月，我学日语。／*先月，私は日本語を学ぶ。

時間名詞“上个月”は過去時間を示しているが，動態助詞“零”は未来時間を示している。この矛盾があるため，中国語では語法手段を以って過去開始を表すことができない。語法手段では表せないが，(33)のように語彙手段で表すことができる。

(33) 上个月，我开始学日语了。／先月，私は日本語を習い始めた。

文法的に考えれば，(33)は過去の出来事を描写する文である。しかし，動詞“开始”の使用によって，出来事“学日语”がその全過程の開始段階にあることが表されるようになる。このような語彙の意味で語法表現を補って説明する形式は「補助アスペクト」(中国語：“补助体”)⁴という。

過去進行 ([22'] [32] [42] [52] [62])

(34) 在聊天的时候，他一直拿眼睛瞄着她。／おしゃべりの時，彼はずっと目で彼女を眺めていた。

(35) 昨天下午1点到3点，我看书来着。／昨日の午後1時から3時まで，私は本を読んでいた。

時間が過去であるとき，“着”は過去の進行を表す。“来”と“着”の結びついた動態助詞“来着”は進行と持続の基本意味をもっているが，過去の進行と持続だけを表す(房玉清1992:467)。そのため，“来着”を用いて過去の進行(または持続)を表

4 中国語の補助アスペクトについては，孫偉(2009)を参照されたい。

すこともできる。また、(36)と(37)のように、時間が過去に限定されれば、“正在”“呢”を使って過去進行を表すこともできる。

(36) 昨天上午10点，我正在修理空调。／昨日の午前10時，私はエアコンを修理していた。

(37) 部长刚才找你呢！／さっき部長が君を探していたよ。

過去(進行)完成 ([43][53][63])

(38) 昨天讲了鲁迅的《狂人日记》。／昨日は鲁迅の『狂人日記』について話した。(刘慈欣『流浪地球——刘慈欣获奖作品』)

(39) 徐部长当时也争着自荐要当“三分之一”日本的女婿来着。／徐部長も当時競って「三分之一」の日本の婿になろうと自己推薦した。(梁晓声『尾巴』)
過去(進行)完成は過去を表す機能を持つ“了”或いは“来着”によって表される。

過去結果状態持続 ([44'] [54][64])

(40) 那时节，她穿着棉衣。／あのとき，彼女は綿入れの服を着ていた。(王小波『黄金时代』)

(41) 桂花出来时穿了件黑裙子，头发挽得很高。／桂花が出てきたとき，黒いスカートを穿いており，髪の毛を高く結っていた。(梁弓『河上的月亮』)

過去時間が示される場合，結果状態継続は“着”或いは“了”によって表される。

過去結果状態完成 ([65])

(42) 到大年初五为止，那家商店休息了一个星期。／新年の5日まで，あの店は一週間休んでいた。

(43) 到昨天闭馆为止，画还在墙上挂着来着。／昨日の閉館まで，絵はまだ壁にかかっていた。

(44) 去年，我在日本生活过3个月。／去年，私は日本で3か月間暮らしていた。

過去時間が示される場合，過去結果状態完成は“了，来着”または“过”によって表される。

過去結果記憶持続 ([66'])

(45)a 到上个月为止，我的计算机坏了3次。／先月まで，僕のパソコンは3回壊れていた。

(45)b 到上个月为止，我的计算机坏过3次。／同上。

(46) 前几年，在北京读书来着。／この前の何年間か，北京で学校に通っていた。

過去結果記憶持続は結果状態がすでに完成した，あるいは結果状態を不問するアスペクトである。過去時間詞が文に使われている場合，あるいは文脈にそのような意味が提示されている場合，“了”，“过”または“来着”がそれを表すことができる。

3.4 開始(後) ([77])

開始(後)の局面[77]は動作開始直後の局面を指し，“了”によって表される。

動作動詞と“了”との関係について、劉月華ほか(2001)は「動作動詞の後ろでは，“了”が動作の開始から完了までの過程にある任意の一点に用いられる。しかし，“了”が注目しているのは動作の発生だけである。動作の持続や完成などの意味は文脈、言語環境によって提供されるものである。」(p. 363)と述べている。

(47) 犯人跑了。／犯人は逃げた。

動詞が動作動詞であるとき、(47)と図8～10を合わせて考えれば、以下のように理解できる。

これは、捕まった犯人が警察官の隙をついて、拘束された状況から逃げ出す動作を始めたことである。この時の局面は開始前から開始に変わる。周りの人が犯人が逃げているのを見て、逃げる方向を指しながら“犯人跑了”([77])と警察官に知らせる。この時の犯人は逃げる動作を継続しており，“跑”の動作は“正在跑”の局面(現在進行[22])に変わる。結果として逃げ出した犯人が捕まらず、警察官が犯人の現在状況を報告するときには，“犯人跑了”(過去動作完成[43]，現在結果状態持続[44])と言うべきである。“了”は複数のアスペクトを表すことができるが，“動作動詞+了”の形で出来事を表し、なおかつこの出来事が現在進行中の局面にあるとき、この“了”が表しているのは完成などのアスペクトではなく、開始(後)の局面[77]である。

4 中国語の派生的語法アスペクト

派生的語法アスペクトは基本的アスペクトの局面から派生したものであり、反復、単純状態、経験、パーフェクト(中国語:已然)を含む。

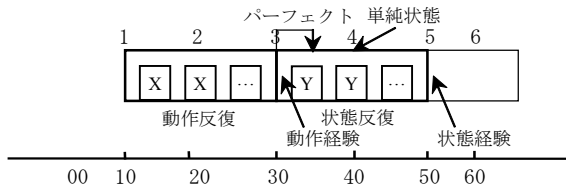


図11-派生的アスペクト

4.1 反復

李宇明(2002)は、「反復は一定の言語手段を用いて、一種あるいは多種の動作の反復進行、一種あるいは多種の現象の反復出現を表す語彙範疇である」(p. 210)と定義し、反復を表す言語手段を語彙手段と語法手段に分けている。

語彙手段は例えば、

(48) 我看了三遍《三国志》。／『三国志』を三回読んだ。

のように，“三遍”のような語彙の意味によって表されるものである。

語法手段は、各種動詞の重複形式がある。

I 同動反復:同一動作あるいは現象の途切れない反復。

“V 啊 V 啊”，“V₁ 啊 V₂ 啊”（啊，呀，哇，互換可。V₁とV₂の意味が似ている），“V了又V”，“V这V那”，“V来V去”，“V上V下”，など。

(49) 汉昭帝接到那份奏章，看了又看，把它搁在一边。／漢昭帝は上奏文を受け取り，何回も見て，それを側に置いておいた。(『CCL』)

II 異動交替反復:異なる動作あるいは現象の交互入替えの反復。

“V₁V₁V₂V₂”(内部構造: V₁V₁ + V₂V₂)，“V₁V₁ + V₂V₂，V₂V₂ + V₁V₁”，“V₁了(又)V₂，V₂了(又)V₁”，など。

(50) 火车这样走走停停，停停走走，本来到南京七八小时的路程，竞走了24小时。／列車はこのまま走っては止まり，止まっては走る。本来南京までの七，八時間の道のりは，なんと24時間も走った。(『CCL』)

(51) 土地生长了草木，草木养育了虫豸与禽兽。大地绿了黄，黄了又绿，生物便在物竞天择中演进，……。／土地は草木を育み，草木は虫と禽獣を育てる。大地は緑から黄に変わり，また黄から緑に変わる。生物は自然淘汰のなかで進化を遂げ，……。(『CCL』)

III 異動併時反復:異なる動作あるいは現象の反復。

“V₁V₁V₂V₂”(条件: V₁とV₂の実施者は複数の個体である場合，もしくはV₁とV₂の具体的時間順序を無視する場合。)

(52) 晚上，宜娟也来了，大家说说笑笑的，一天就飞驰过去了。／夜，宜絹も来た。みんな談笑して，一日はあっという間に過ぎた。(『CCL』)

本研究は李宇明(2002)のI～IIIの観点に賛同する。同時に，反復の表現は以上の形式にとどまらず，動態助詞や副詞などの語法手段もあると考えている。以下では，反復の構造および動態助詞と副詞によって表される反復を解析する。

動作あるいは状態の反復は，その実施者は個体もしくは複数個体であってもいいが，一つの動作・状態もしくは複数(主に二つ)の動作・状態であってもいい。一つの動作あるいは状態の反復は図11で示されるような，複数の同様な動作(X)が繰り返して進行する，もしくは複数の同様な状態(Y)が繰り返して出現する，という構造になる。すなわち，動作の反復は進行の局面から派生し，状態の反復は状態の局面から派生する，ということである。

(53) 下周，我每天都穿着运动服去上学。／来週，毎日運動服を着て学校に行く。

- (54) 今后, 每周必须向我汇报一次业绩。／今後, 毎週一回必ず業績を私に報告しなさい。
- (55) 你为什么每天都喝酒? / あなたはどうして毎日お酒を飲んでいるの?
- (56) 东来西往的电气列车永无休止地吞吐着人流。／入れかわりたちかわり入って来る電車が, 次々に人々を飲み込み, 人々を吐き出している。
- (57) 发明大王爱迪生, 数十年间, 每天都只睡三到四个小时。／発明王のエジソンは, 数十年間, 毎日3~4時間しか寝ていなかった。(『CCL』)
- (58) 医院施工的半年间, 每天都有上百名村民赶来参加劳动。／病院を建設していた半年間に, 毎日100名ぐらいの村人が働きにやっていた。(『CCL』)
- (59) 那时的陆海天, 每天穿着大胶靴, 戴着大手套与有毒物质打交道, 与普通工人毫无二致。／あの時の陸海天は, 毎日, 大きなゴム長靴を履いて, 大きな手袋を嵌めて有毒物に触れており, 普通の社員と全く同じだった。(『CCL』)

動作や状態の反復は必ず一定の時間内に行われるため, その時間を表す言葉が必要になる。非過去あるいは過去の時間が示されていれば, 動態助詞“零”と“着”および副詞“在”が動作と状態の反復を表すことができる。動態助詞“了”は時間の完結性[言及点3と5]を表す機能を持つため, 反復を表すことができない。

4.2 単純状態

中国語には, あたかも動作過程を持たないような動詞がある。例えば, “耸立”(聳える)の動作は, 過程はあるが, 人間には見ることができない。“死”(死ぬ)の動作も過程はあるが, 瞬間に終わってしまうため, ほとんどないに等しい。この動作過程を無視してもいいような, よく状態で現れる局面を単純状態という。当然, 話者が単純に状態の局面に注目し, それ以外の局面に全く関心をよせないときもある。このときの状態も単純状態の部類に入る。単純状態を表す標記は, 動作性動詞あるいは状態性動詞の後ろに用いられる“着”と“了”であり, その用法は結果状態持続を表す場合と同様である。

- (60) 我坚信明天会是个晴天, 阳光照耀着嫩嫩的绿芽, 含苞待放的花朵, …… / 私は明日も晴天であると固く信じている。太陽の光は若い緑の芽やつぼみを持って今にもほころびようとする花を照らしており, …… (『CCL』)(状態動詞, 未来)
- (61) 明天, 还端着今天的饭碗吗? / 明日も今日の茶碗を持っているか。(『CCL』)(動作動詞, 未来)
- (62) 每一座山头上都镶嵌着几道莹白的积雪。 / どの山も, 山頂近いひだひだに幾条かの白い雪を持っている。(『CCL』)(動作動詞, 現在)
- (63) 人世间充塞着悲剧。 / 世間は悲劇に満ちている。(『CCL』)(状態動詞, 現

在)

- (64) 我们俩一人穿了件红色的衣服，一人穿了件白色的衣服。／私たち二人は、一人が赤の服を着ており、一人が白の服を着ている。(『CCL』)(動作動詞，現在)
- (65) 1898年9月28日，在北京宣武门外菜市口刑场上，屹立着六位即将就义的好汉。／1898年9月28日，北京宣武門外菜市口の処刑場に，まもなく正義のために死を迎える6名の好漢がそびえ立っている。(『CCL』)(状態動詞，過去)
- (66) 那时候，齐威王已经死了。／あのとき，齊威王はすでに死んでいた。(『CCL』)(瞬間動詞，過去)

4.3 経験

中国語の経験(経歴)相は，動作・行為・変化が以前すでに発生・進行，あるいは状態が存在したということを示す。したがって，過去と現在の経験相はあるが，未来の経験相はない。

戴耀晶(1997)は，現代中国語の経験相の形態標記は“过”であると認識しているが，龚千炎(1995)，範曉・張豫峰(2008)などはそれと同様な考えを持っているうえ，“来着”も経験相の標記であると述べている。しかし，“来着”と共起する動詞は必ず持続動詞であり，瞬間動詞であってはいけない(張誼生2000:62)。また，3で分析してきたように，“来着”が表すのは，過去の進行，過去と現在の完成・結果状態持続・結果状態完成・結果記憶である。経験相は完結相の一種であり，現実相と同じように，経験相は外部から時間過程中の出来事構成を観察し，出来事の分解できない完全的な性質を反映している(戴耀晶1997:57)。つまり，経験相は，話者が40の現在位置に立って1~3の過程を丸ごと捉える，もしくは60の現在位置に立って3~5の過程を丸ごと捉える，ということである。このような機能を持つ動態助詞は“过”しかなく，現代中国語の経験相は“过”によって表されるのである。

動作経験は持続性動詞でもいいし，瞬間動詞でもいい。

- (67) 四月份两人曾经到渋谷斜坡上吃过鸡素烧。／四月には二人で渋谷の坂の上のすきやき屋へ食事に行っている。(石川達三『青春の蹉跎』)(現在経験)
- (68) 因为以前去过，所以他很容易地找到了那家酒店。／前に行ったことがあったので，彼はそのホテルを簡単に見つけた。(過去経験)
- (69) 要讲死，我早已是死过多次了。／死と言え，私はもう何回も死んでいるよ。

状態経験は“状態動詞+过”の形によって表される。

- (70) 我也失业过一次。／私も一回失業している。(現在経験)

(71) 在这之前我中过一次毒，这是第二次了。／この前に一回中毒していたので、これは二回目だ。(過去経験)

4.4 パーフェクト

パーフェクトの機能は、状態と叙述の時間を関連させることにあり、叙述中のある一点の情景に関わる背景評論を導入することにある(李呐ほか1994:119-120)。これを構造的に考えれば、パーフェクトは言及点3が言及点4にかかわる局面(図11参照)にあたる。中国語のパーフェクトは“了”によって表される。それは「“了”の基本的交際機能は一種の『目前相關狀態』を表すことであり、つまり、“了”は現在時間において一つの出来事が某特定の『参照時間』と特定の関連を持つということを表す」(李呐ほか1994:121)からである。

(72) 这封信落在你手里的时候，大概我已经离开这个世界，早就死了吧。／この手紙が貴方の手に落ちる頃には、私はもうこの世にはいないでしょう。とっくに死んでいるでしょう。(夏目漱石『坊ちゃん』)(未来パーフェクト)

“死了”は未来の出来事であるが、前文の出来事と一種の因果関係を持っている。

(73) 师范的学生穿着制服；中学学生在仪式结束后大都换了民族服装，所以敌我双方一看就明白。／師範は制服をつけているが、中学は式後大抵は日本服に着換えているから、敵味方はすぐわかる。(夏目漱石『坊ちゃん』)(現在パーフェクト)

過去に終わった動作“換了”は、現在の“明白”の原因となっている。

(74) “早都见过了？哪个？”／「会っている？だれだい？」(井上靖『あした来る人』)(現在パーフェクト)

“了”はパーフェクトを表す場合、“过+了”の形で現れるときもある。このような場合、それを“(V+过)+了”と見なすことができる(竟成1993:54)。すなわち、パーフェクトを表すのは“过”ではなく、“了”であるということである。

(75) 我要是事先准备一下，当天也就不会出那么大的丑了。当时，弄得你也怪没面子的吧。／事前に用意していれば、当日にはあんな大恥をかくことがなかった。当時、君もメンツがつぶれたと感じていただろう。(過去パーフェクト)

出来事はすべて過去のものであるが、話者が出来事“出那么大的丑了”によって聞き手に影響が出たかどうかを尋ねている。

5 まとめ

中国語の語法アスペクトの種類と表現方法をまとめれば、表3になる。

表3—中国語の基本アスペクト・派生アスペクトとその表現

		未来	現在	過去	完結／非完結
基本	開始(前)	<零>	<零>	語彙手段	非完結
	進行	<着><正在> <正在+呢><呢>	<着><正在> <正在+呢><呢>	<着><正在> <正在+呢><呢>	非完結
	動作完成	<了>	<了><来着>	<了><来着>	完結
	結果状態持続	<着><呢>	<着><了><正在> <正在+呢><呢>	<着><了>	非完結
	結果状態完成	<了>	<了><过><来着>	<了><过><来着>	完結
	結果記憶持続	<零>	<了><过><来着>	<了><过><来着>	非完結
	開始(後)	×(無)	<了>	<了>	非完結
派生	反復	動詞の繰返し <零><着>	動詞の繰返し <零><着>	動詞の繰返し <零><着>	非完結
	単純状態	<着><了>	<着><了>	<着><了>	非完結
	経験	×(無)	<过>	<过>	完結
	パーフェクト	<了>	<了>	<了>	完結

中国語のアスペクト体系の研究は盛んに行われてきたが、研究方法の違いおよび表現方法の複雑さなどの原因により、まだ未解明なところが多い。本研究は完全な出来事を中心に、その語法的アスペクトの種類と表現方法を考察している。中国語のアスペクトの全体像を把握するには、表層表現からのアプローチも重要であるが、その前にアスペクトの深層構造を明らかにすることが必要である。

参考文献

- 今泉喜一（2000）『日本語構造伝達文法』 揺籃社
- 王松茂（1981）「漢語時体範疇論」『齊齊哈爾師範學院學報』 第3期:65-76
- 王力（1943）『中国現代語法』（1985新1版） 商務印書館
- 何偉・付麗（2015）「現代漢語体的功能視角研究」『北京科技大學學報(社会科学版)』 第3期:10-19
- 竟成（1993）「關於動態助詞“了”的語法意義問題」『語文研究』 第1期:52-57
- 龔千炎（1995）『漢語的時相時制時態』 商務印書館
- 侯學超（1998）『現代漢語虛詞詞典』 北京大學出版社
- 高名凱（1948）『漢語語法論』（1986再版新1版） 商務印書館
- 尚新（2007）『英漢體範疇對比研究:語法體的內部對立與中立化』 上海人民出版社
- 孫英杰（2007）『現代漢語體系系統研究』 黑龍江人民出版社
- 孫偉（2005）「中国語複文の時間表現について」『杏林大學大学院論文集』 第2号:1-15
- 孫偉（2009）「日本語と中国語のアスペクト補助動詞」『比較日本文学研究』 第2号:141-154
- 戴耀晶（1997）『現代漢語時体系系統研究』 浙江教育出版社
- 陳前瑞（2005）「“來着”的發展和主觀化」『中国語文』 第4期:308-319
- 陳前瑞（2008）『漢語體貌研究的類型學視野』 商務印書館
- 陳平（1988）「論現代漢語時間系統的三元結構」『中国語文』 第6期:401-422
- 張誼生（2000）「略論時制助詞“來着”兼論“來着¹”與“的¹”以及“來着²”的區別」
『大理師專學報』 第4期:61-67
- 張斌（2002）『新編現代漢語』 復旦大學出版社
- 張斌（2006）『現代漢語虛詞詞典』 商務印書館
- バーナード・コムリー（1976著）山田小枝（1988訳）『アスペクト』 むぎ書房
- 範曉・張豫峰（2008）『語法理論綱要(修訂版)』 上海譯文出版社
- 房玉清（1992）『實用漢語語法』 北京語言文化大學出版社
- 楊寄洲ほか（1999）『漢語教程』 北京語言大學出版社
- 李宇明（2002）「論“反復”」『中国語文』 第3期:210-216
- 李鉄根（1999）『現代漢語時制研究』 遼寧大學出版社
- 李臨定（1990）『現代漢語動詞』 中国社会科学出版社

- 李訥ほか（1994）「已然体的話語理据：漢語助詞“了”」『功能主義与漢語語法』
北京語言学院出版社：117-138
- 劉月華ほか（2001）『实用現代漢語語法（増訂本）』商務印書館
- 黎錦熙（1924）『新著国語文法』（1992新1版）商務印書館
- 呂叔湘（1956）『中国文法要略』（1982新1版）商務印書館
- 呂叔湘（1999）『現代漢語八百詞（増訂本）』商務印書館

研究者紹介 孫偉 Sun Wei

略歴：1992年 中国から日本へ留学。
1996年 杏林大学日本語学科入学。
2000年 杏林大学大学院国際協力研究科入学。
2007年 同大学院修了，学術博士号取得。
2008年 中国に戻り，首都師範大学に就職し，日本語教師として今日に至る。副教授。

日本語構造伝達文法との関わり：2000年，今泉喜一先生の授業で初めて日本語構造伝達文法に出合い，この研究法の普遍性と正確さなどに魅了されている。以来，構造研究法を用いて，日中両言語のテンス，アスペクトの研究に取り組んでいる。

今回の論文について：今回の発表論文は構造研究法を用いて中国語の語法アスペクトの種類，構造，表現方法を考察するものである。論文では中国語の語法アスペクトを基本アスペクトと派生アスペクトに分け，各種アスペクトの構造を解析し，それぞれの表現方法を説明している。今回の論文は中国語アスペクト研究の初めの段階であり，今後もこのような研究を重ねていく所存である。

今後の研究予定：

- ①構造研究法を用い，日本語と中国語のテンス範疇を比較・研究し，両者の異同を考えながら，中国語のテンス体系をさらに明らかにしたい。
- ②研究チームを組み，日本語と中国語のアスペクト範疇を文法と語彙の両側面から考えている。これは，時間と工夫が必要な研究内容となっているが，少しずつ深めていきたい。

メールアドレス：sunwei19920918@yahoo.co.jp / swriyuxi@126.com